

新しい授業づくりの文化を創る

令和4年5月30日「能力ベースの授業づくり実践講座」教材研究会

第3号



授業に対する情熱がすごい!!
熱い議論が止まらない実践講座
一人、また一人と熱が伝わる
気づけば、どのグループでも
熱気あふれる意見の応酬
この充実した学びの時間こそが
これからの未来社会を生きる
子供たちのためになる!

<教材研究会の受講者の声>

- ・学習指導要領の背景を知ることで、その教科の特性がわかると実感しました。(A先生)
- ・中学校の指導案について、小学校教諭の自分が、ここまで考える場、機会が今までなかったの、貴重な体験ができ、よかった。次回、授業研究会で、どのくらい子供がめざす姿を達成できるのか楽しみです。(K先生)
- ・グループでの話し合いで、合理的な解決に向けた学習過程の具体的なプランをいろいろと出せたのがおもしろかった。(I先生)
- ・「生徒の成長実感を支える学び」を自分の授業の中でどう描いていったらいいのか考えながら聞いていました。今日のお話は分かりましたが、自分の教科にかえて考えるといつも行き詰まります。他教科の方が考えやすいときもあります。(U先生)
- ・前回の国語に続き、今回の体育の教材分析により、さらに「能力ベース」とは何か、ということが深まってきたように思います。また、指導主事の先生方が毎回グループに参加し、ともに学ぶという面も、とても楽しく、勉強になっています。(K先生)



授業者からの趣旨提案&協議の論点整理

授業者：船橋 壮 教諭

学校：吹田市立第二中学校

学年：第2学年

領域：陸上競技「走り高跳び」



今回は、まず授業者である船橋先生に、指導案に基づいて、単元をどう描いたのか語っていただきました。

その中で、右記の【単元後の生徒の姿】に向かって、言語化された見方・考え方の成長を見取りながら、課題解決を促す学習活動について、ご提案がありました。

その後、小林指導主事と船橋先生との対話から、協議の論点が整理されました。模造紙に可視化しながらグループ協議を行い、その内容について全体で共有しました。

<論点①> 高跳び(陸上競技)で、どんな能力を身につけるのか。

<論点②> 合理的な解決に向けた学習過程の設定の仕方とは。

船橋先生が描く「単元後の生徒の姿」

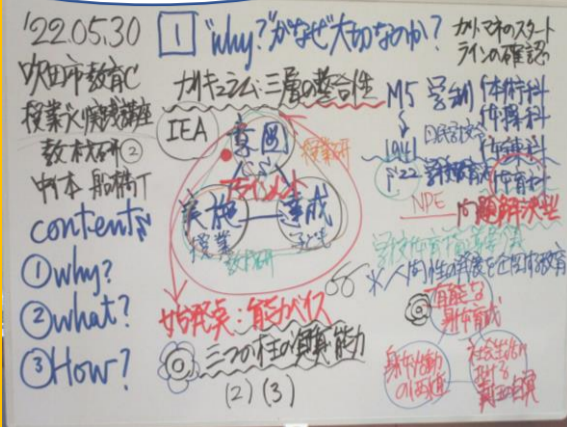
- ・行っている運動やスポーツの何を目標して練習しているのかという目的意識を持って取り組めるようになる。また、その運動やスポーツの課題解決に向けたプロセスを理解し始めている。
- ・『走り高跳び』という種目を見るとき視点として「記録」だけではなく「高く跳べた理由は何か?」という視点を持つことができている。
- ・自分が持っている運動やスポーツにおける「感覚」を、「言語化」し、他者に伝えようとする姿が見られる。
- ・運動やスポーツの多様な関わり方において「する」だけではなく「見る・支える・知る」という方法があるということを理解している。



齊藤先生による全体指導

WHY WHAT HOW 3つの視点から単元を描く

WHYの視点



□「Why?」がなぜ大切なのか? カリキュラム・マネジメントのスタートラインの確認

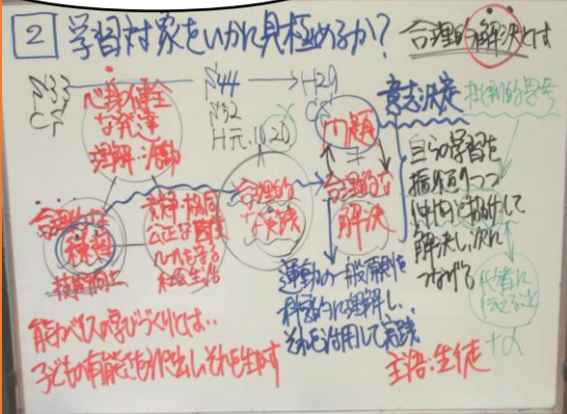
グループ協議や全体共有で出てきた話題の大半は「内容(コンテンツ)」であった。

どういった力を身につけるか「能力(コンピテンシー)」で考えないといけない。

能力ベースで着眼しなければならないのは、3つの柱の資質能力の中で、**思考・判断・表現、学びに向かう人間性**である。問題解決やプランニング、適切な判断ができる、といった視点で教材・単元を見る必要がある。

なぜ、教材研究会をするのか。それは、学習指導要領に示されている**意図**が、授業研究会で授業に反映されているかを確認するため。また、その意図は**始発点**であり、**能力**になっている。教材研究会で、意図と授業の整合性が取れていることを確認し、授業研究会に臨むことになる。

WHATの視点

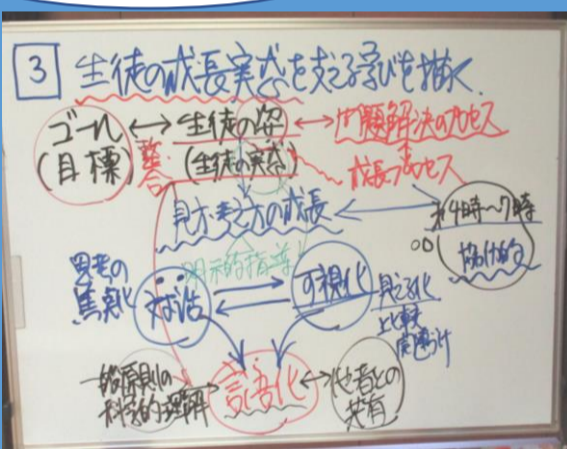


□学習対象をいかに見極めるか? 合理的な解決とは?

学習対象は、内容とプロセスの両方。体育におけるプロセスは合理的な解決であり、運動の一般原則、科学的な理解を活用して実践していくことが**合理的な解決のベース**になる。そして、自らの学習を常に振り返り、仲間と協働して解決し、次につなげることが大事。自らの学習を振り返りというのは「**クリティカルシンキング**」、協働してというのは「**他者に伝える**」ということ。

常に問える力(今の助走でよかった?何がだめだったのかな?)が重要。批判的に思考する。本当にそれで大丈夫か問える子供にしたい。最終的には、**意思決定できる力**を育てたい。そして、その**主語は全て子供である**ことを忘れてはならない。

HOWの視点



□生徒の成長実感を支える学びを描く!

生徒が自分なりにできたと感じ、成長を実感できるように、どう学びを描くか。**生徒自身が問題解決のプロセス(成長プロセス)を描くことが大事**。それがゴール(目標)と整合が取れているかがポイントになる。

見方・考え方の成長が、成長のプロセスということ。それを支えているのは、**明示的指導**である。その成長実感を支えるための指導が大事。跳べたか、跳べなかったかではない。**能力ベースはプロセスが大事**。

言語化をもって、成長が実感できるように行動化させる。自分の成長を表出するためには言語化するしかない。**言語化**をするためには、**可視化(比較・関連づける)**と対話(思考の焦点化)が重要である。

子供が成長を実感できるように、どう学びを描くか...

6月30日(木) 授業研究会

場所:吹田市立第二中学校

授業参観の視点

子供たちは、「合理的な解決」にどのように向かおうとしていたのか。

授業参観後の協議では、上記の視点を論点とします。
教材研究会での学びを活かして、授業を見てください。

能力ベースの授業というのは、子供の有能さ(見方・考え方)を活かしながら、体育らしい学びのプロセス(する、見る、支える、知る)で、「クリティカルシンキング」、「他者に伝える」ことをやっていきたい。



～発行者の徒然なる想い～

今、授業で悩んでいるあなたこそ、この実践講座に参加してほしい。悩んでいるということは、自分の授業に問いを持っているということ。その問いはまだ、はっきりと言語化できていないかもしれません。しかし、授業を変えたい!よりよい単元を創りたい!!という気持ちは疑いようがありません。同じ問い、気持ちを持った先生たちと語り合いませんか。

吹田市立教育センター 文責:川添 TEL 06-6337-5412
能力ベースの授業づくり実践講座 令和4年(2022年)5月

新しい授業づくりの文化を創る

学び続ける教師の軌跡

3